

ひめじょ通信

発行：第11号（年1回発行）

発行日：2016. 5. 15

広報委員：今村朋子（編集長）・中越利佳
中尾慶子・原田恵美・秋本美加

発行部数：250部

発行元：一般社団法人 愛媛助産師会

事務局：愛媛県松山市天山1-4-7-604
（一社）愛媛助産師会 会長 黒田優子

E mail: stnytrj2125@yahoo.co.jp



愛媛県で37人の「アドバンス助産師」が誕生！

2015年は私たち助産師にとって大きな出来事がありました。それは、**助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）**のレベルⅢの認証制度が始まったことです。一般的な名称としては、英語の「**Clinical Ladder of Competencies for Midwifery Practice**」の頭文字をとって、**CLoCMiP®（クロックミップ）**と呼ばれております。このレベルⅢの認証申請の書類審査、試験に合格した助産師は、「**アドバンス助産師**」として認証されます。

CLoCMiP®そのものは、看護協会を中心に開発されたものですが、今回の制度化にあたっては、**助産関連5団体**（日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会、全国

助産師教育協議会、日本助産評価機構）が**オールジャパン**で取り組み、仕組みを作っていたことも画期的なことでした。私たちの**愛媛助産師会**も、このうちの「日本助産師会」の一員として、8月の申請時期までに必須研修を複数開催するなど、オールジャパンの中での役割を果たしてきました。

今回のひめつうでは、愛媛の合格者の状況や、認証に向けて助産師会で開催された必須研修の報告、そしてひめつう編集委員による、実際に認証を受けるまでの取り組みと、それを助産師外来の実践につなげている様子まで…皆様にまとめてお伝えいたします！

目次

- * アドバンス助産師誕生 1～3
- * 研修・イベント報告 4～5
- * 自主グループ活動 6～7
- * 皆様へのお知らせ 8



●レベルⅢに認証された人に贈られるバッジです。真ん中に「**Advanced Midwife**」と書かれています。

●クリニカルラダーのレベルⅢとは？

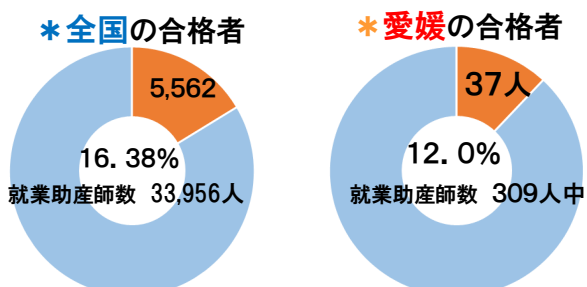
レベル新人～レベルⅣまでの段階のうち、「**レベルⅢ**」については、院内助産等で「**自立して助産ケアを提供できる助産師**」と認め、全国どここの施設でも**共通の基準**により「**アドバンス助産師**」として認証しようとする新たな制度です。

レベルⅢに到達する目安としては、例えば「分娩介助100例以上、妊娠期の健康診査200例以上」などの条件が定められ、**助産師として7年程度のキャリア**が想定されています。

今回の制度で認証される段階



●2015年度の愛媛の助産師の結果は？



残念ながら、愛媛は全国平均を下回り、四国4県でも最も少ない認証者の数とパーセンテージでした。きっと初年度は申請しなかった隠れ「アドバンス助産師」がたくさんいるものと思われます。（※②より）

●その他の情報について

- * 5年ごとの更新制ですので、専門職として学び続けることが求められます。
- * 原則はオンライン申請ですので、ネット環境が必要です。
- * 2016年の申請は8月1日12時から25日17時まで。2017年は新規受付が休止となり体制の整備を行った後、翌2018年から受付再開となります。

●申請にあたっては「一般財団法人 日本助産評価機構」のホームページをご覧ください。<http://www.josan-hyoka.org/ladder3.html>

●引用・参考文献

①日本看護協会：助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）活用ガイド2013
<http://www.nurse.or.jp/nursing/josan/oyakudachi/kanren/sasshi/pdf/guide.pdf> [2016.05.05アクセス]

②助産雑誌2016年4月号 特集「アドバンス助産師の誕生」
医学書院, vol 70 no.4 p.264-295, 2016



「アドバンス助産師」 認証までの奮闘

公立学校共済組合 四国中央病院 助産師 中尾慶子

助産師外来研修を受け、キャリア開発することの意味を実感

認証を目指したきっかけは、2013年8月助産師会主催の助産師外来研修に4日間、四国中央病院での、助産師外来の開設に向けてのスキルを身に付けようと、意気込んで参加したことでした。その研修の中で、『助産実践能力(クロックミップ)レベルⅢの認証』についての説明がありました。「自身の助産実践能力を可視化し、キャリア開発していくことは、社会や妊産婦からの期待に応えることができる助産師につながることであり、多くの助産師にレベルⅢの認証申請をしてもらいたい。」というものでした。

申請期間は平成27年8月1日から8月31日。申請までに病院内での準備として、申請に必要な書類準備や、自分自身の研修記録の整理、分娩件数、必須研修の講習受講、学会参加、上司、師長との面接を行い評価を受けます。これらをまとめた自分の



「周産期倫理」研修 仁志田博司先生と

必須
研修

クロックミップ必須研修として開催された倫理研修会に参加した助産師2年目の曾根さんから感想をいただきました。

生命倫理研修会に参加して

県立中央病院 曾根 梢
医療の進歩や医療に対する社会の認識の変化に伴って、生殖医療に関する倫理の実態と課題はますます大きくなってきている。そのために生命倫理が、医療において今後さらに重要かつ必要になってきていることを、今回の研修に参

『ポートフォリオ』を作成していきました。

認証制度の目的は、妊産婦や新生児に対して良質で安全な助産とケアが提供できる。この制度により、助産師が継続的に自己啓発を行い、専門能力を高める機会を得ることが出来る。社会や組織が助産師の実践能力を客観視出来る。レベルⅢを認証された助産師は、『自律して助産ケアを提供できる助産師』として公表することができます。このことは、ケアの対象である、妊産婦やご家族へのさらなる信頼につながることにあります。

日本助産評価機構ホームページから申請用紙をダウンロードし、申請に必要な書類一式(ポートフォリオ)を看護部長に提出し、面接承認を得ます。看護部長の承認を受けた書類や必須研修修了書などの書類をデータ化し、申請料5万円の振り込みを行い申請します。

書類審査は9月1日から25日、合格通知は申請者が大幅に増えたこともあり、11月12日と延期になりました。11月20日から30日まで、試験練習サイトの試験問題を練習し、12月1日から14日まで本試験の実施がありました。12月3日、仕事の休日に本試験を自宅で受験し『アドバンス助産師』認証制度に合格しました。

試験内容は、新生児蘇生アルゴリズム、助産師外来の、医師との協働妊婦のアセスメント、異常分娩・搬送症例のアセスメン



テスト対策ファイル
を作成し、隙間時間
で勉強しました。



ト、産科危機的出血への対応フローチャート、産科DICスコア、心拍数レベル分類と対応と処置、保健師助産師看護師法などの法令関係から30問。

試験勉強は、看護協会のオンデマンドの必須研修をプリントアウトして見直し、産婦人科診療ガイドライン、助産業務ガイドライン、新生児蘇生法テキスト産科補償制度『再発防止委員会からの提言』を熟読し、自分用の試験対策ファイルを作成して、仕事でも持ち歩いて確認していきました。

試験を終えて思うことは、助産師外来院内助産を運営する上で、必要なスキルであり、助産師として自律したケアを提供してけるように、さらに研鑽していく努力が必要です。今後認証制度を取得する為にかけた時間や、研修は、自分の為だけでなく、病院や地域社会への貢献とつながることを意識し、行動していかなければならないと思っています。

加して改めて考えさせられた。

生殖に関する医療は生命に直結しているため、生殖医療に携わる者が、その役割や対象者への援助について仁志田先生のいわれるように「あたたかい心」を持って考えていかなければならない。生殖補助医療では、対象者の権利と選択の自由があるからこそ、倫理的、法律的、医学的にも多くの課題があるのが現

実である。その倫理的な課題を私たちがどのように受け止めるのか、そして対象者やその家族にどう影響し、どのようなケアにつながられるのか、倫理的な判断がより必要になると感じた。しかし、その問題や内容は複雑かつ難しく、何が正解・不正解というわけでもないため多くの疑問と葛藤を抱えながら今後も向き合っていかなければならない課題だと感じた。

クロックミップ(CLoCMiP)レベルⅢ認証と助産師外来

当院では2014年4月から助産師外来を開設、2015年6月から妊婦健診を開始しました。初診時、問診でトリアージを助産師がおこなう上で、助産業務ガイドラインや産婦人科診療ガイドラインを参考にし、当院のガイドラインを作成しました。トリアージしたローリスク妊婦は、助産師の妊婦健診をおこない、妊娠中からきめ細やかな指導や、お産に対する心構えを共に考える機会を持つことが出来ました。開設後、月約100人の妊婦が、助産師外来を受診し、全員の妊婦が、出産までに助産師と関われるようになりました。助産師外来を開設してからのスタッフの意識改革や、スキルアップの上でも、この**クロックミップレベルⅢ認証制度**が、とても役立ったのではないかと思います。

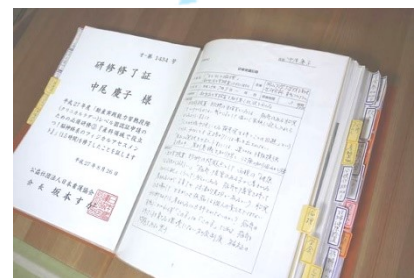
産婦人科医師との協働で診ていく、ハイリスクの妊婦は、妊娠早期からアセスメントし、事例検討会を、チームで持ちました。社会的ハイリスク妊婦、DVスクリーニングで問題のあったケースは、CAPSチームで情報共有したり、保健センターの情報からフィードバックしたり、助産師外来チーム会で、勉強会を企画していきました。

この認証制度を活用して、今後は産後の



一人一人と関わる助産師外来

病棟のポートフォリオとクロックミップ申請用のファイルを2冊作成しました



継続的な支援体制に強化していけるように努力していきたいと思っています。

またクロックミップの**ポートフォリオ**をまとめることで、自分自身の助産師としての経験を可視化することが出来、経験の特徴や、助産ケアの評価にも役立ちました。ぜひ皆さんもポートフォリオを作成してみてください。

(広報委員：中尾慶子)



「フィジカルアセスメント」研修 阿部恵美子先生と



●中尾さんにインタビュー

「Q：助産師外来を立ち上げて感じた率直な感想は？」

外来は、助産師ならではの関わりができるので、とても楽しんでしています。お産までに情報もとってから関われるので、夜間に入院となっても、情報収集が短時間で済みます。やっぱり、もっと早くに助産師外来を立ち上げていれば…と思うこの頃です。

問診やトリアージの在り方もとても難しいですが、ハイリスク妊婦を支援していく上で大切なことなので、自分の力量を試されている感じです。でも、とても遣り甲斐を感じます。まだまだ課題はありますが、前に少しずつ進めるように頑張ります！

必須 研修

こちら**クロックミップ必須研修**として開催された愛媛助産師会主催の研修会の報告をさせていただきます。

「産婦の異常の 早期発見と対応」研修報告

講師：愛媛県立中央病院

産婦人科部長 阿部恵美子 先生
産婦人科医長 池田 朋子 先生

「産婦の異常発見と対応」というテーマで、県立中央病院 産婦人科部長の阿部先生と産婦人科医長の池田先生を講師にお迎えして研修会が開催されました。今回の研修会は、助産実践能力習熟段階(CLoCMiP)レベルⅢ申請に必要な研修会であったため、非会員の助産師も多く参加され、いつも以上に活気のある研修会になりました。

池田先生は、妊娠の定義、妊娠の母

体の変化、妊婦健診、正常分娩、産褥期の身体的変化について、教科書に書かれてある基本的な知識を丁寧に説明していただきました。時折、事例をあげられ、臨床現場での対応や注意点を詳しく説明していただき、若手だけでなく、ベテラン助産師も基本を確認できるともよい機会となりました。

阿部先生からは、主に分娩誘発等における注意点を詳しく説明していただきました。多くの分娩誘発による医療事故が報告されていますが、そのほとんどは、ガイドラインを順守していないことが原因とされています。ガイドラインを順守し、細やかな観察をおこなっていくことの必要性を改めて痛感しました。特に、阿部先生からは、連続モニターだけに頼っ

てはいけないこと、産婦の全身状態や腰痛、性器出血等モニターには表れない症状を充分に注意することを強調されたのが印象的でした。

今回の研修会は、「CLoCMiP」レベルⅢ客観試験の出題範囲でもあり、研修の内容が試験問題に出題されるとあって、緊張感をもって参加することができました。学生時代を思い出した人もいたのではないのでしょうか。

今年度レベルⅢ認証試験に5,562名が合格し、アドバンス助産師に認定されたそうです。愛媛の助産師としてともに学び続けていきましょう。

(広報委員：愛媛県立医療技術大学
中越利佳)

平成27年5月17日
春季研修会

春季
研修

「乳腺炎の予防とトラブルへの対応」

講師：宮下美代子先生（宮下助産院）

2011年1月に愛媛助産師会の研修を受け、今回は2回目の乳腺炎の研修参加でした。乳腺炎のガイドラインに基づいて講義してくれた宮下先生。あれから3年…日々母乳外来対応に奮闘している自分にエールをいただきました。

『現在乳腺炎でケアしている方ですが、痛みもあり母乳を止めたいとまで言っています…。どうケアしたらいいの?』という私の質問に対して『体を緩ませること、バックケアの大切さ、妊娠中からの体作りや観察方法、助産師として先を見通していかなければいけない判断や技術。助産師の迷いは相手に伝わる。』『そうやって、その方の一番つらい時に寄り添って時間を過ごすことは、忘れられない存在としてお母さんに残るはずよ。頑張る。』と宮下先生からのアドバイスをいただきました。

した。自分の迷いがお母さんに伝わっていたのではない、かいう不安な気持ちを前向きに捉え、自分のケアを振り返り、見極めていく力をつけていかなければ前に進めないと感じる言葉でした。新しくなった、「母乳育児支援業務基準の乳腺炎2015」を購入し、また新たな気持ちでお母さん、赤ちゃんに向き合っていきたいと思います。

『母乳支援では、やめなさい。やりなさい。と指示はしていません。状況を見極めること、頑張らせすぎないこと、家族や子供を含めてその人のケアを見いだしていくこと…、そして乳房ケアの手に迷いがなくなるのは、10年。お産は20年かかるの。』まだまだ伝えきれない大先輩の言葉。後輩達に伝えたいと思う宮下先生の思いに伝えられるよう、日々研鑽していきます。

（広報委員：四国中央病院 中尾 慶子）



イベント
報告

東予さんばフェスタ2016

マリンパーク新居浜

平成28年2月28日
東予地区イベント

今年の東予さんばフェスタは「からだ・いやし・いのち」の3つのテーマで開催されました。メイン講座は初の骨盤メンテ講座・いつも人気のベビーマッサージ・ひめじょ劇団によるリニューアルお産劇と充実した内容となり、参加者の皆様もとても満足して下さった様子でした。東予地区

の助産師に加え、学生ボランティアが多数参加して運営するこのイベント。ひめじょ劇団のトップ女優！の三宅さん扮する産婦の夫役には、なんと男子看護学生さんが大活躍となり期待通りの大活躍！これまでにないリアルさと面白さが満載のお産劇となりました。（広報委員：今村朋子）



●マミーの佐々木さんありがとう…

皆様も既にご存知と思いますが、今年のさんばフェスタ開催を待たずに、マミー助産院の代表としてご活躍された佐々木真理さんが天国に旅立られました。東予地区会が発足したのも、そして6年前に東予さんばフェスタをスタートしたのも佐々木さんの存在なくしては語れないことを、この紙面を借りて皆さんにお伝えさせてください。マミー助産院が開院された10年前、県内3地区の助産師会の中で唯一、東予だけは地区会がありませんでした。そこで東予で初の研修会を企画…それが佐々木さんを講師としたヨガ研修でした。佐々木さんがその時の講師料を東予地区会活動資金として寄付して下さり、細々と東予地区会の活動がスタートしました。また、東予さんばフェスタ開催も、マミー助産院を拠点として佐々木さんが市長さんや行政をまきこみ、お母さん

ちをまき込み、そして東予の助産師が結束できたからこそ、ここまでのイベントへと成長したのでした。毎年、さんばフェスタのバザーで、ボランティアスタッフみんなであわせた、少し辛口の「マミー助産院特製カレー」や「豚汁」の味が忘れられません。

今年の1月に開催した東予地区の会議では、マミー助産院がテレビ取材を受けたDVDを見て、皆で佐々木さんを偲びました。東予地区の助産師にとって、かけがえのない存在であるマミー助産院がこれからも存続できるようにと多くの助産師の方が「自分に何かできることがあれば」と様々な形でサポートを申し出てくれました。今後は阿部さんが代表となったマミー助産院を心の拠点として東予地区会の活動を続け、大切に育てていきたいと思っています。佐々木さんどうか見守っててください。（いまむら）

平成28年3月8日
イベント&神事開催

さんばの
日

母子と助産師の日イベント・安産福運大祭

場所：高忍日賣神社・徳丸老人憩いの家

母子と助産師の日イベント

毎年3月8日に開催されている産婆の日の記念行事が、今年も盛大に行われました。座談会の会場となった神社隣の「老人憩いの家」には、なんと…70名！を超える助産師の方々が全国から集まりました。

おなじみ岡本喜代子先生のパワフルな講演の後、「開業の魅力を共有しませんか！」というテーマで、香川、岡山、神奈川、群馬の4県で開業している助産師の方のお話がありました。保健指導を中心に地域の産後の母子に寄り添う助産師の様子や、子育てと仕事の折り合いをつけながら様々な場所で助産師の仕事のスタイルを模索する様子、やっぱり「お産を」と開業助産師として分娩助産に取り組み始めた様子など、それぞれの開業スタイルでの活動の実際やその魅力を生き生きと語ってくださいました。

(広報委員：今村朋子)



● 県外からお招きしたゲストスピーカーの皆様

● 母子と助産師の日のイベントに参加して

愛媛県立医療技術大学 H27年度 助産学専攻科学生
大田亜果音 永井緑

岡本先生の講演では、私たち学生へのメッセージをいただき、とても勉強になりました。1年間の助産学専攻科での学びの期間を終えて、4月から病院での初めての勤務を目前にしている今、「考える」ということを決して欠かしてはいけないと感じました。先生の生き生きとした様子から、助産師の魅力をたくさん感じ、助産師になってよかったと思えるお話でした。これから臨床の場に出ていく中で、考える力をフルに活用して働いていきたいと思います。

また、各県のスピーカーの方のお話では、開業をすることでより地域に密着できる、地域のお母さんや赤ちゃんの成長を実感できることに興味を持ちました。そして開業するためには、助産の力だけでなく、様々な専門的な力が必要となってくることを学ぶことができました。これから日々、目標を持ち、根気強く助産師として学ぶことを継続していきたいと思いました。今後も自分の幅を広げるためにも、積極的にセミナー等にも参加しようと思いました。

学生さんたち！
しっかり考える
助産師になりなさい。
量をこなさないと
質にならないのよ！
劣を厭う人は絶対に
成長しません！
とにかく1回でも多く
自分から経験させて
もらいなさい。



安産福運大祭

午後からは、高忍日賣神社殿に助産師の参拝者の皆さんが昇殿し、厳かに神事がとりおこなわれました。助産師の更なる技術向上と発展そして全国の母子が健康であるよう祈願しました。午後の神事から参加された方も大勢いらっしゃいました。

いつもながら、このような神社が、私たちのすぐそばにあることは、本当にありがたいことだと実感する3月8日でした。



2016.03.08

読んでみん犬(けん)！？

「今さら…紹介！？」「とくに読んだわよ」と言われるかもしれませんが、取り上げるのが遅くなってすみません。毎年、産婆の日にお越しくださる岡本先生と、私たち助産師を心から応援してくださっていた産科医、進先生の著書です。まだの人は、2冊セットでどうぞ！



「助産力」

進純郎、岡本喜代子（著）日本助産師会出版（2014）
お二人の先生が、助産師のために書き下ろした1冊です。

「子宮力」

進純郎、（著）日本助産師会出版（2014）
今に生きる女性に向けた「子宮」からのメッセージ。



リプロ
ヘルスG

「ピアカウンセラー養成セミナー」

場所：青少年ふれあいセンター

H27.8.21~8.23
ベーシックセミナーH28.3.25~3.26
フォローアップセミナー

現在、愛媛助産師会リプロヘルスグループで活動している私たちですが、その前身は、愛媛県助産師研究会の思春期保健グループで学習を深め、性教育マニュアルを作成し、各教育機関の場所で性教育を実践してきたことがベースになっています。その助産師研究会が解散した後、愛媛助産師会の自主グループとして活動を引き継ぎ、現在に至っています。

こうした性教育活動の一環として、平成19年からピアっ子養成を行ってきました。これは、思春期における健康教育のピアエデュケーション・カウンセリングを行える人材育成及び実践研修を目的としており、主に県立医療大学の学生を中心にピアっ子を養成し県内の高校、大学でピアカウンセリングを実施しています。今回は皆さんにピアっ子たちが頑張っている様子をお伝えしたいと思います。（広報委員／リプロヘルスグループ：市立宇和島病院 原田恵美）

1. ピアカウンセリングとは？

「ピア（peer）＝社会的、法的に地位の等しいもの、対等者：仲間：同僚の意味」の意識を持って、人間の成長と心の健康に関する知識と、アクティブリスニングおよび問題解決スキルを用いて行う相談活動のことです。思春期の若者にとってセクシュアリティの問題を相談するとき「仲間」の存在は極めて重要です。ピアカウンセラーの役割は、性の問題に正しく対処できるように彼らの自覚、意思決定や問題解決能力を高めることです。単に正しい知識を教えるだけではなく、将来の人生設計を見通した上で、例えばセックスをすることが、今「イエス」なのか「ノー」なのかを自分で決められる「性=生の自己決定能力」を育てることが欠かせません。

2. カリキュラムの構成

本カリキュラムは、ピアカウンセラー養成基本編（ベーシックセミナー）とピアカウンセラー養成継続編（フォローアップセミナー）の2つのセミナーを中心として構成されます。

1) ベーシックセミナーの構成

ベーシックセミナーはセクシュアリティにおける基本的な知識、思春期ピアカウンセリングに関する理念と基本的態度を学んだ上で、実際に思春期ピアカウンセリングを行う実践能力を身につけることを目的として行われます。カリキュラムの科目は「セクシュアリティに関する知識」、「ピアカウンセリングに関する知識」、「ピアカウンセリング実践」の3つに大別されます。

2) フォローアップセミナーの構成

フォローアップセミナーは、ベーシックセミナーで学んだスキルを活かして実践を重ねたものに対して、それまでの思春期ピアカウンセリングを実践していくうえで生じた悩みや思いを、かつて同じセミナーを受けた仲間同士で共有することで、ピアカウンセラー自身のパワーlessnessを予防し、エンパワメントを強化することです。さらに最新のセクシュアリティに関する知見や思春期ピアカウンセリングスキルのブラッシュアップを行い、さらに充実した思春期ピアカウンセリング活動を実践することができるようになることを目的として行われます。

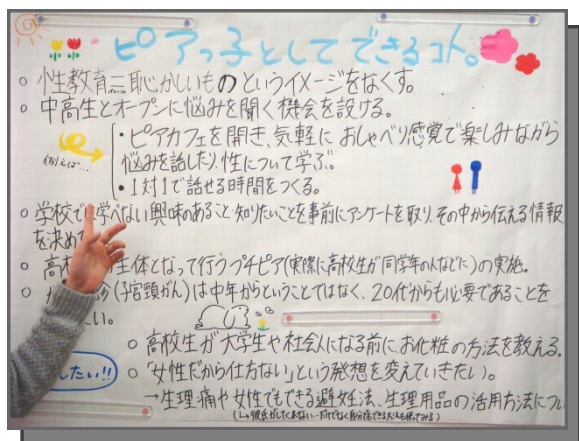
フォローアップ
セミナーにて今後の
ピア活動について
考え中です。



先輩ピアによる
アイスブレイク



● 真剣に取り組む日々を追って成長していく学生たちです。



●最後に学生たちが、ピアっ子としてできることを具体的に話しました。

セミナーを受講終了した学生の感想

- *だんだん楽しくなってきた、楽しみながら知識やスキルを高めることができた。
- *今までずっとアドバイスしがちだった自分がすこし相手に寄り添えるようになった。
- *悩んでいる人はもちろん色々な人に知識を提供し、話を聞きピアカウンセリング・エデュケーションを受けてよかったといってもらえるような活動をしたいです。

3. 繋がっていくピアっ子

H21・22年度ピアっ子養成講座受講生
松居沙也香さん(宇和島市役所)

H27年度ピアカウンセラー養成セミナーが開催され8名のピアカウンセラー(ピアっ子)が誕生しました。アクティブリスニングの手法やセクシュアリティ講義等、学生、スタッフたちが同じ目線で学び合い、笑顔の絶えない講座となりました。またともに養成に奮闘してくれた先輩ピアっ子たちが、ピアとして学生たちに堂々と語りかける姿に感動し、改めてピアは実施する側・受ける側も自分の大きな財産になる貴重な活動だと確信しました。

私も大学時代ピアっ子として活動し、現在は松山市



●受講終了書をもって8名のピアっ子の誕生！

NPO登録「ピアリンクえひめ」の一員としてピア活動を支える活動をしています。27年度は本格的にピアを愛媛に広げるため、会員2名がピアコーディネーターの資格を取得し、県下の学校・地域を繋げる役目を果たしてくれています。私もピアカウンセラー養成者認定を目指して研修中です。これからもピアっ子という大切な存在を守り、思春期を迎えた子供たちの気持ちに寄り添える助産師になれるように頑張っていきます。

4. 愛媛でのピアカウンセリング展開について

若者たちが主役であるピアカウンセリングが広く実践されるためには、助産師や思春期保健・性教育にかかわる関係者の意識改革が必要です。若者にとって最も影響力があるのは誰かを自覚し、主役を若者たちに委ね彼らが十分に力を発揮できるように、コーディネーターの役割が果たせる人が必要です。助産師会でもピアっ子が活躍していけるように支援していきたいと思います。性教育は、性を教えるだけでなく人を優しくさせる教育です。ピアっ子たちも認定終了するという目的だけではなく、居心地のよい場所だからこそ、わかりあえる仲間がいるからこそ、求め集まってくるのではないのかと思います。セミナーは、ふれあいセンターで毎年行いますので興味・関心のある方は是非リプロヘルスグループに参加して下さい。よろしくお願いします。



孫育て
講座

「子育て・孫育て講座」

新居浜市 総合福祉センター

昨年に引き続き、愛媛県の事業として「子育て・孫育て講座」を開催されました。講義は真田千恵子さん(きら病院)による遊びやふれあいを大切にした子育てのお話と福増理栄子さん(県立今治病院)による母乳育児や災害時の調乳方法のお話がありました。そして日本お手玉の会の方を講師にお迎えしてお手玉を取り入れた子育てのお話と遊び体験では、参加者皆が一緒になってお手玉を楽しみました。小さい赤ちゃん連れのお母さん・おばあちゃん・ひいおばあちゃんも参加してくださり、3世代～4世代の交流ができる昔遊びの良さを実感することができました。(いまむら)

平成27年12月13日
愛媛助産師会事業



●皆で楽しくお手玉遊び！



The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015

ICM

「第11回 ICMアジア太平洋地域会議・助産学術集会」が日本で開催されました！

2015年は記念すべき出来事として、国際助産師連盟（International Confederation of Midwives）のアジア太平洋地域の国際会議・学術集会が「すべての妊産婦と赤ちゃんに助産師のケアを」というテーマのもと日本で開催されました。日本での開催は、1995年に第4回のアジア太平洋会議が開催されて以来20年ぶりの開催とあって、横浜の会場には37か国から3,200名以上の参加者が訪れたそうです。大盛況の会場とあって、どのブースも立ち見&入りきれずに廊下のモニターに映し出される会場内の様子を見る人で、とにかく熱気にあふれていました。はるばる遠い横浜の地で、たくさんのひめじょ会員の皆様にお会いすることができ、この会議の期待の高さを感じさせられました。ここでは、その様子を写真でご紹介いたします。（広報委員：愛媛県立医療技術大学 今村朋子）



会場は、横浜市みなとみらいにあるパシフィコ横浜でした。半円形のビルの下が会場です。



日本助産師会の展示ブース
-本部の葛西圭子専務理事と-
英語で助産師会の活動をPRして
いました。他県の助産師会の活動
を報告したポスター展示もあり、
愛媛も出せばよかったなあと広報
委員長として後で反省しました…



日本の産婆の歴史に
関する貴重な資料の展
示には多くの外国の方
が集まっていた。

インドの講師による新生児蘇生の
ワークショップの様子。いろんな
国の人を楽しみながら参加してい
ました。英語が??の私でも参加で
き、言葉が通じなくても蘇生のアル
ゴリズムに沿った行動は「共通言
語」なんだと体感しました。



● ウェルカム ひめじょコーナー ●

ひめじょへようこそ！ひめつう10号発行以降に新入会や他支部より転入された会員の皆さまを紹介します。

- ◆東予地区（3名）加地ひとみ・蝶野李奈（四国中央病院）、白石知子（きら病院）
- ◆中予地区（13名）田中恵美子（助産院emi）、崎山貴代（-）、石井清美・森恭子・松岡郁美・桃井怜（松山赤十字病院）
井上明子（医療技術大学）、栗林恵津子・向谷直美・高松美里・鴻上知里・景浦春奈・宇都宮さやか（県立中央病院）
- ◆南予地区（2名）二宮美里（よしもとレディースクリニック）、大田亜果音（市立宇和島病院）

*敬称略：H27年度4月以降の入会者から、H28年4月1日現在で手続き中の方まで掲載

● 新入会員の皆様 & アドレスが変わった会員の皆様へ ～ひめじょメール登録のお願い～

愛媛助産師会では、**会員専用のひめじょお知らせメール**を運営しています。研修情報を事前に配信しますので、登録しておけば研修の申し込みもラクラクです。新しく、クリックだけで参加申込できる「**簡単申込**」も一部研修に導入しました！災害時の安否確認システムとしても重要なツールになりますので登録にご協力ください。

ひめじょ-お知らせ

● 登録方法 himejyo-oshirase@mamail.jp にカラメールを送信してください。

- *右のQRコードを携帯で読み取ると面倒なアドレス入力が必要で不要です。
- *携帯・パソコンメールどちらでも構いません。
- *すぐに登録手続き用の返信があり、簡単な入力で登録完了です。

● 携帯の迷惑メール防止機能による削除が多くなっています！

【@mamail.jp】が受信できるよう**再設定**のうえ登録をお願いします！

*設定を簡単に行うには、携帯からこちらにアクセス！→<http://www.mamail.jp/ds/>



入会用のQRコードです。
これで簡単に登録してネ！
すでに登録済の人も、
自分の登録状況が
確認できますヨ！



★ 新入会手続きのご案内

(社)日本助産師会への入会をご希望の方は、以下のいずれかの方法で愛媛助産師会を通じて手続きをなさってください。

- ①研修会の時などに書類と会費を持参する
- ②書類郵送/会費を振り込む(右の連絡先へ)
- ③愛媛助産師会理事に直接渡す

*入会金について：入会手続きを希望される方は、
初年度のみ入会金1万円を含む30,000円が必要です。
次年度からは年会費20,000円が自動引き落としになります。
(学生の賛助会員から正会員に移行の方は、入会金は不要です)

(一社)愛媛助産師会連絡先

総会で役員選任がされてから、会長が決まり、連絡先などが変更となる予定です。

- 住所：〒790-0951 愛媛県松山市天山1-4-7-604
愛媛助産師会 会長：黒田優子
- TEL/FAX：089-906-4061
- Email：stnytrj2125@yahoo.co.jp
- 振込先：ゆうちょ銀行16140-2281641
(口座名義) 日本助産婦会愛媛県支部

★ 編集後記

平成27年度は「アドバンス助産師」という大きな話題がありました。この制度が今後、助産師の自律と母子の幸せにつながるのか…？それは、今回認証を受けられた皆さまや、今後認証を目指す皆さまのこれからの実践にかかっているのだと思います。皆さまのこれからに期待しておりますので、ぜひ「ひめつう」に、その後の活動をお知らせください。

もうひとつは悲しい出来事もありました。今回は、これまでひめつうに登場していただいた方々の訃報をこの紙面を借りてお伝えいたします。春季研修会の講師として岩手からお招きした進純郎先生、中四国研修で講師をくださった重川浩司先生、お産場探訪で取材を受けてくださった佐々木真理さん、心よりご冥福をお祈りいたします。（編集長 いまむら）

